

二月二二日から始まつたシリア軍の西ペイルートへの展開は、反シリア軍妨害活動に直面しつつも、確実に治安計画の実施として進行している。しかし、まだその進行度のバラマーケターとされているペイルート空港再開、西側大使館の西ペイルートでの事務再開は行われていず、レバノン・ボンドも下落途上にある。パレスチナ人キャンプのアマル

によるベイルート治安計画推進の要請を受ける形で、解除されたことは、飢餓の危機に瀕していたパレスチナ住民にとって、歓喜に満ちたことであった。四月七日、シャティーラ・キャンプ、四月八日ボルジ・バラジネ・キャンプにシリア軍が展開されたのである。シリア軍がシリア軍は停戦違反には、原則的に対処しているという。

二月二二日から始まつたシリア軍の西ペイルートへの展開は、反シリア軍妨害活動に直面しつつも、確実に治安計画の実施として進行している。しかし、まだその進行度のバラマーケターとされているペイルート空港再開、西側大使館の西ペイルートでの事務再開は行われていず、レバノン・ボンドも下落途上にある。パレスチナ人キャンプのアマル

の責任者ガジ・カナーンは、「キャンプ連盟定例評議会（外相レベル）」と宣言

二師団がベイルートからサイダに至る海岸線に配備されている。

シリア軍の展開は、サイダ市内、そして東部山岳地帯まで到るであろう。そのとき、南

の手先のSLA（南レバノン軍）と

レバノンに「セキュリティゾーン」を設けているイスラエル、そ

の軍事的緊張は一挙に高まっていく。

ところで、キャンプ戦争の停戦内

容には、パレスチナ勢力の武装解除の撤退を要求している。ベイルートでキャンプの戦闘が再び激化している。皮肉なことである。

中東和平国際会議とPLO再統一

一九八七年四月一〇日

一 シリア軍によるベイルート治

安計画推進



第23号

発行 ウニタ書舗
東京都千代田区神田神保町1-52
TEL. (03) 291-5533
編集 J.R.A.
郵便振替 東京1-48443
三菱銀行神保町支店 当座9012656
会員制 年会費20000円

目次

中東和平国際会議とPLO再統一	1
トリポリ合意（資料①）	7
レバノン共产党第5回大会（資料②）	10
激動の中東ドキュメント（1987年3月6日～4月10日）	11

の問題は、明確に規定されてはいないとされる。なぜなら、未だ南部はリスト教徒右翼との内戦は続いているからである。現段階でパレスチナ勢力の武装解除は、味方内の矛盾を拡大し味方の力を弱めるだけである。さらに、その次の焦点は、キリスト教徒右翼に対する対処である。西バノン再統一に向かたキリスト教徒右翼との政治交渉はいきづまりの実情にある。すでに、アミン・ジエマイールの大統領特使が第一〇回目のダマスカス訪問を行い、レバノン再建案を呈示したが、その内容は、これまで提案されていたもの（大統領権限の一一定の譲歩を含む）よりも後退したものであつたという。それは、イスラムのスンニ派を代表するカラミ首相の「一步後退なり」という発言にあらわれている。イスラム勢力は一齊に、その提案に失望した対応をしている。

大統領のアミン・ジエマイエルは、

大統領ではあるが、まずマロン派教徒の権益を防衛する立場に立っている。そのマロン派教徒の最高意思決定は、ジェマイエル個人ではなく、マロン派指導部が開催された。

しかし、イスラエルは、シリアのこの役割の増大を容認するわけにはいかない。レバノン内戦の継続、シリアルアの政治的経済的危機は、イスラエルのもつとも望むところなのである。三月から四月にかけての東サイダのゲリラ基地（パレスチナの身体障害児のための学校も攻撃対象となつていた）へのイスラエル機による爆撃は、PLOに対する恫喝であるとともに、そこに治安計画を進めようとするシリア軍による治安計画の推進は、イスラエル、レバノン右翼勢力との戦争対峙をより緊張したものにしているのである。

もである。レバノン内の各武装勢力の対立、抗争は自己解決能力を失い、混迷を続けてきたからである。それゆえ、シリアには大義がある。キリスト教徒右翼勢力にとっても、それは無視しえない。時間がかかっても、結局、マロン派指導部もシリアのこうした役割を認めざるを得ない。

しかし、イスラエルは、シリアのこの役割の増大を容認するわけにはいかない。レバノン内戦の継続、シリアルアの政治的経済的危機は、イスラエルのもつとも望むところなのである。三月から四月にかけての東サイダのゲリラ基地（パレスチナの身体障害児のための学校も攻撃対象となつていた）へのイスラエル機による爆撃は、PLOに対する恫喝であるとともに、そこに治安計画を進めようとするシリア軍による治安計画の推進は、イスラエル、レバノン右翼勢力との戦争対峙をより緊張したものにしているのである。

民族勢力、民主勢力が国家政治の枠に規定されている現在、それをつききるものとして、被占領地人民の

二 反占領闘争を高揚させるアラブ人民

民を追放し、イスラエルというシオニスト国家をでっち上げることを容認し、周辺国家統合支配を目論んだ

の問題は、明確に規定されてはいないとされる。なぜなら、未だ南部は

リスト教徒右翼との内戦は続いているからである。現段階でパレスチナ勢力の武装解除は、味方内の矛盾を

拡大し味方の力を弱めるだけである。

さらに、その次の焦点は、キリスト教徒右翼に対する対処である。西

バノン再統一に向かたキリスト教徒右翼との政治交渉はいきづまりの実

情にある。すでに、アミン・ジエ

マイールの大統領特使が第一〇回目のダ

マスカス訪問を行い、レバノン再建

案を呈示したが、その内容は、これ

まで提案されていたもの（大統領権

限の一一定の譲歩を含む）よりも後退

したものであつたという。それは、

イスラムのスンニ派を代表するカラ

ミ首相の「一步後退なり」という発

言にあらわれている。イスラム勢力は

一齊に、その提案に失望した対応

をしている。

大統領のアミン・ジエマイエルは、

大統領ではあるが、まずマロン派教

徒の権益を防衛する立場に立っている。そのマロン派教徒の最高意思決

定は、ジェマイエル個人ではなく、

マロン派の僧侶の最高評議会で行わ

れていた。

民族勢力、民主勢力が国家政治の

枠に規定されている現在、それをつ

ききるものとして、被占領地人民の

二 反占領闘争を高揚させるアラ

ブ人民

民を追放し、イスラエルというシオ

ニスト国家をでっち上げることを容

認し、周辺国家統合支配を目論んだ

の問題は、明確に規定されてはいな

いとされる。なぜなら、未だ南部は

リスト教徒右翼との内戦は続いているからである。現段階でパレスチナ

勢力の武装解除は、味方内の矛盾を

拡大し味方の力を弱めるだけである。

さらに、その次の焦点は、キリスト教徒右翼に対する対処である。西

バノン再統一に向かたキリスト教徒右翼との政治交渉はいきづまりの実

情にある。すでに、アミン・ジエ

マイールの大統領特使が第一〇回目のダ

マスカス訪問を行い、レバノン再建

案を呈示したが、その内容は、これ

まで提案されていたもの（大統領権

限の一一定の譲歩を含む）よりも後退

したものであつたという。それは、

イスラムのスンニ派を代表するカラ

ミ首相の「一步後退なり」という発

言にあらわれている。イスラム勢力は

一齊に、その提案に失望した対応

をしている。

大統領のアミン・ジエマイエルは、

大統領ではあるが、まずマロン派教

徒の権益を防衛する立場に立っている。そのマロン派教徒の最高意思決

定は、ジェマイエル個人ではなく、

マロン派の僧侶の最高評議会で行わ

れていた。

民族勢力、民主勢力が国家政治の

枠に規定されている現在、それをつ

ききるものとして、被占領地人民の

二 反占領闘争を高揚させるアラ

ブ人民

民を追放し、イスラエルというシオ

ニスト国家をでっち上げることを容

認し、周辺国家統合支配を目論んだ

の問題は、明確に規定されてはいな

いとされる。なぜなら、未だ南部は

リスト教徒右翼との内戦は続いているからである。現段階でパレスチナ

勢力の武装解除は、味方内の矛盾を

拡大し味方の力を弱めるだけである。

さらに、その次の焦点は、キリスト教徒右翼に対する対処である。西

バノン再統一に向かたキリスト教徒右翼との政治交渉はいきづまりの実

情にある。すでに、アミン・ジエ

マイールの大統領特使が第一〇回目のダ

マスカス訪問を行い、レバノン再建

案を呈示したが、その内容は、これ

まで提案されていたもの（大統領権

限の一一定の譲歩を含む）よりも後退

したものであつたという。それは、

イスラムのスンニ派を代表するカラ

ミ首相の「一步後退なり」という発

言にあらわれている。イスラム勢力は

一齊に、その提案に失望した対応

をしている。

大統領のアミン・ジエマイエルは、

大統領ではあるが、まずマロン派教

徒の権益を防衛する立場に立っている。そのマロン派教徒の最高意思決

定は、ジェマイエル個人ではなく、

マロン派の僧侶の最高評議会で行わ

れていた。

民族勢力、民主勢力が国家政治の

枠に規定されている現在、それをつ

ききるものとして、被占領地人民の

二 反占領闘争を高揚させるアラ

ブ人民

民を追放し、イスラエルというシオ

ニスト国家をでっち上げることを容

認し、周辺国家統合支配を目論んだ

の問題は、明確に規定されてはいな

いとされる。なぜなら、未だ南部は

リスト教徒右翼との内戦は続いているからである。現段階でパレスチナ

勢力の武装解除は、味方内の矛盾を

拡大し味方の力を弱めるだけである。

さらに、その次の焦点は、キリスト教徒右翼に対する対処である。西

バノン再統一に向かたキリスト教徒右翼との政治交渉はいきづまりの実

情にある。すでに、アミン・ジエ

マイールの大統領特使が第一〇回目のダ

マスカス訪問を行い、レバノン再建

案を呈示したが、その内容は、これ

まで提案されていたもの（大統領権

限の一一定の譲歩を含む）よりも後退

したものであつたという。それは、

イスラムのスンニ派を代表するカラ

ミ首相の「一步後退なり」という発

言にあらわれている。イスラム勢力は

一齊に、その提案に失望した対応

をしている。

大統領のアミン・ジエマイエルは、

大統領ではあるが、まずマロン派教

徒の権益を防衛する立場に立っている。そのマロン派教徒の最高意思決

定は、ジェマイエル個人ではなく、

マロン派の僧侶の最高評議会で行わ

れていた。

民族勢力、民主勢力が国家政治の

枠に規定されている現在、それをつ

ききるものとして、被占領地人民の

二 反占領闘争を高揚させるアラ

ブ人民

民を追放し、イスラエルというシオ

ニスト国家をでっち上げることを容

認し、周辺国家統合支配を目論んだ

の問題は、明確に規定されてはいな

いとされる。なぜなら、未だ南部は

リスト教徒右翼との内戦は続いているからである。現段階でパレスチナ

勢力の武装解除は、味方内の矛盾を

拡大し味方の力を弱めるだけである。

さらに、その次の焦点は、キリスト教徒右翼に対する対処である。西

バノン再統一に向かたキリスト教徒右翼との政治交渉はいきづまりの実

情にある。すでに、アミン・ジエ

マイールの大統領特使が第一〇回目のダ

マスカス訪問を行い、レバノン再建

案を呈示したが、その内容は、これ

まで提案されていたもの（大統領権

限の一一定の譲歩を含む）よりも後退

したものであつたという。それは、

イスラムのスンニ派を代表するカラ

ミ首相の「一步後退なり」という発

言にあらわれている。イスラム勢力は

一齊に、その提案に失望した対応

をしている。

大統領のアミン・ジエマイエルは、

大統領ではあるが、まずマロン派教

徒の権益を防衛する立場に立っている。そのマロン派教徒の最高意思決

定は、ジェマイエル個人ではなく、

マロン派の僧侶の最高評議会で行わ

れていた。

民族勢力、民主勢力が国家政治の

枠に規定されている現在、それをつ

ききるものとして、被占領地人民の

二 反占領闘争を高揚させるアラ

ブ人民

民を追放し、イスラエルというシオ

ニスト国家をでっち上げることを容

認し、周辺国家統合支配を目論んだ

の問題は、明確に規定されてはいな

いとされる。なぜなら、未だ南部は

リスト教徒右翼との内戦は続いているからである。現段階でパレスチナ

勢力の武装解除は、味方内の矛盾を

拡大し味方の力を弱めるだけである。

さらに、その次の焦点は、キリスト教徒右翼に対する対処である。西

バノン再統一に向かたキリスト教徒右翼との政治交渉はいきづまりの実

情にある。すでに、アミン・ジエ

マイールの大統領特使が第一〇回目のダ

マスカス訪問を行い、レバノン再建

案を呈示したが、その内容は、これ

まで提案されていたもの（大統領権

限の一一定の譲歩を含む）よりも後退

したものであつたという。それは、

イスラムのスンニ派を代表するカラ

ミ首相の「一步後退なり」という発

言にあらわれている。イスラム勢力は

東同盟由説問
三、ガルフ航行船舶に対する米海軍による護衛提案（クウェートは断つたとされる）。

四、国務次官を四月末にイラクへ派遣する予定。

に表現される。失った信頼を再び作るための努力である。が、あくまで、イスラエルとの戦略同盟（シヤミル訪米時、NATOの枠外では最重要な戦略同盟の一つと規定）を第一とする以上、ポラード・スペイ事件、「イラン・ゲート」問題等、イスラエルとの矛盾はあっても、アラブ総体が要求する公平な立場には立ちそうにない。あくまで、イスラエルが主導権を握った「和平」を追求するであろう（キャンプ・デービッドと、レーガン案）、レーガンは積極的に中東外交展開ができる力を持つていいであろう。

アラブ反動の側は、ソ連の世界的平和攻勢、レーガンの失点（「イラン・ゲート」）、シリアへの帝国主義による政治・経済圧力を利用して国際会議とフェーズ案による中東和平解決を要求し出している。八七年に入つてからのフセイン国王による精力的なEC工作、シリア工作、エジプト工作、これを側面援助するサウ

東同盟國訪問

ジアテビアのEC工作 北アフリカ
工作は、どのような意図によるもの
であろうか？ フセインは、四月初
旬、自らはEC工作を行いつつ、首
相、外相を訪米させ、「米国政策の
変更を要請した」EC工作では、
次のように国際会議を規定している。
一、国際会議を全アラブが支持して
いる。

二、国際会議は、国連安保理常任理
事国が開催準備し全関係国が参加
するもの。

三、国連決議二四二、三三八をうけ
入れ、暴力的な解決を放棄せねば
ならない。

四、PLOも招待されるだろう。あ
しPLOの呈示する条件が満たさ
れるなら、PLOも出席するだろ
う。

五、ECが同国際会議にオブザーバー
ー参加しても良い。

これからわかるのは、PLOに対
して、武闘路線の放棄、二四二、三
三八の承認（イスラエルとの相互承
認、パレスチナ人の難民規定のうけ
入れ）を要求していることである。
また、米帝に対しても、「国際会議
を行う」という文書確認をかちとり
対ヨルダン援助、対「西岸開発」援
助をかちとることをめざしていたと

思われるか（マスリ外相発言「四月初旬」）、成功しなかったようだ。米帝は、口では「国際会議に賛成」を言うようになつたが、實際には、ヨルダン、アラブ反動の要求する援助、兵器を与えない。八八年度の対外援助の数字が如実にそれを物語るつまり、エジプト、イスラエルには約三〇億ドルの援助（条件は、もちろんイスラエルのほうが圧倒的に東海岸に立場を取る）を決定したのに、ヨルダンに対しては約一億五〇〇〇万ドル（まるで要求の半額しか与えない見込みが高い）。

サウジの望む「国際会議」は、ヨルダンの目的と違う点がある。それは、サウジがイスラムの柱として、（国王の尊称は、「二大イスラム聖地の保護者」である）「エルサレムを首都とするパレスチナ国の建国」を公式にはおろすわけにはいかないという現実からおきている。サウジアラビアは、アラブの総意として、フェーズ案をおし出していかざるを得ない。

さて、シリアはどうか？ シリアは、ブレジネフ提案來、一貫して国際会議を主張してきたが、ゴラン奪回が、強制力のない国際会議で可能だとは考えていない。シリアは、イスラエルに対しての戦略的バランスが有利になる限りにおいて、国際会議に当事者として参加するだろう。アサド政権下では、政治交渉でゴラン問題が解決すると、シリアもイスラエルも考えてはいないのだから。米、イスラエルの思惑は明白でない。第二キャンプ・デービッドの（直接交渉の）条件づくりとして、国際会議を利用しようとしているにすぎない。第二キャンプ・デービッドの条件づくりとして、他方でとつていて、米帝に圧力をかけようとしているのだろう。

ジアテビアのEC工作 北アフリカ
工作は、どのような意図によるもの
であろうか？ フセインは、四月初
旬、自らはEC工作を行いつつ、首
相、外相を訪米させ、「米国政策の
変更を要請した」EC工作では、
次のように国際会議を規定している。
一、国際会議を全アラブが支持して
いる。

二、国際会議は、国連安保理常任理
事国が開催準備し全関係国が参加
するもの。

三、国連決議二四二、三三八をうけ
入れ、暴力的な解決を放棄せねば
ならない。

四、PLOも招待されるだろう。あ
しPLOの呈示する条件が満たさ
れるなら、PLOも出席するだろ
う。

五、ECが同国際会議にオブザーバー
ー参加しても良い。

これからわかるのは、PLOに対
して、武闘路線の放棄、二四二、三
三八の承認（イスラエルとの相互承
認、パレスチナ人の難民規定のうけ
入れ）を要求していることである。
また、米帝に対しても、「国際会議
を行う」という文書確認をかちとり
対ヨルダン援助、対「西岸開発」援
助をかちとることをめざしていたと

思われるか（マスリ外相発言「四月初旬」）、成功しなかったようだ。米帝は、口では「国際会議に賛成」を言うようになつたが、實際には、ヨルダン、アラブ反動の要求する援助、兵器を与えない。八八年度の対外援助の数字が如実にそれを物語るつまり、エジプト、イスラエルには約三〇億ドルの援助（条件は、もちろんイスラエルのほうが圧倒的に東海岸に立場を取る）を決定したのに、ヨルダンに対しては約一億五〇〇〇万ドル（まるで要求の半額しか与えない見込みが高い）。

サウジの望む「国際会議」は、ヨルダンの目的と違う点がある。それは、サウジがイスラムの柱として、（国王の尊称は、「二大イスラム聖地の保護者」である）「エルサレムを首都とするパレスチナ国の建国」を公式にはおろすわけにはいかないという現実からおきている。サウジアラビアは、アラブの総意として、フェーズ案をおし出していかざるを得ない。

さて、シリアはどうか？ シリアは、ブレジネフ提案來、一貫して国際会議を主張してきたが、ゴラン奪回が、強制力のない国際会議で可能だとは考えていない。シリアは、イスラエルに対しての戦略的バランスが有利になる限りにおいて、国際会議に当事者として参加するだろう。アサド政権下では、政治交渉でゴラン問題が解決すると、シリアもイスラエルも考えてはいないのだから。米、イスラエルの思惑は明白でない。第二キャンプ・デービッドの（直接交渉の）条件づくりとして、国際会議を利用しようとしているにすぎない。第二キャンプ・デービッドの条件づくりとして、他方でとつていて、米帝に圧力をかけようとしているのだろう。

交渉しか言わなかつたイスラエル、米帝までもが、国際会議を主張し出しているが、何を狙つてのことなのか？

まず、イスラエルだが、八六年秋のペレス＝ムバラク会談で、「八七年を交渉の年に」とうち出し、国際会議方式で同意したとされる。さらに、八七年に入つて、一月中旬の訪欧時、次のように規定している。

一、アラブ・穏健派、とくにヨルダンを対象、イスラエル交渉に入れるもの。

二、ただし、この国際会議は、直接交渉を補完するものであつてはならないし、いかなる結論も強制する権限も持たない。

三、イスラエルと外交関係を持たぬ国は、参加できない。

これをうけて、駐イスラエル米大使は、三月中旬には、「ヨルダンを交渉にひき出すために有効なら、米国が支持するかもしれない」と、シユルツ発言をくり返した。そして、二月中旬から訪米したシャミルは、シユルツ、レーガンとの会談時、次のような「国際会議」ならやるとしてゐる。すなわち、米、イスラエル、ヨルダン、エジプト、パレスチナ人の代表が、ムバラクとの会談を行い

「国際会議を八七年に」とうち出した。以来、ペレスとシャミルは、国際会議をやる、やらないで表面上は対立し、举国一致内閣の危機、国会解散、早期選挙かというところまで行っているように報道されている。しかし、両者とも、内容で大きく違するわけではない。なぜなら、ヨルダンとの交渉が中心である点、国際会議が強制力をもたないこと、国際会議という枠組を利用してアラブとの相互承認をかちとること、さらにはソ連との国交回復をかちとること（それの前提として、ユダヤ人移民規制緩和を要求している）等で、ペレスの戦術のほうが柔軟であるようみえるだけである。さらに、両者とも、パレスチナ代表権をPLOに与えぬ点では、何ら違わない。つまり、国際会議という形を整え、ヨルダンがイスラエルと交渉する公認をかちとるということである。ヨルダンは、イスラエルに領土を占領されているのだろうか？ いないのである。ヨルダンが領土権を主張し、実際にも六七年までは支配していた西岸は、パレスチナ人のものである。米帝は、シャミル訪米直前にも、シュルツが再び「ヨルダンを交渉にひき出すために、国際会議を望む」

カーターの中東歴訪時には、アンマンで次のように発言している。

一、七八年三月のキャンプ・デービッド合意は、将来の（対イスラエル）和平条約の基礎たりうる。

二、国際会議は結構だが、きつい要求を出したら、イスラエル国民の八五%を疎外することになる。

三、個人見解としては、イスラエルとヨルダンの間にパレスチナ独立国を建国することが、中東和平にとって最良だとはみなさぬ。ヨルダンとの連邦が最も良いものだと思う。また、パレスチナ人大多数もそう望んでいると思う。

四、国際会議、または二者間交渉でのような合意に到るにせよ、パレスチナ人代表は、アラファト議長とPLOが認めた人間でなければならぬだろう。四〇万人の在外パレスチナ人の声を代表する以上、PLOの意志を無視するわけにはいかない。

カーター元大統領が、キャンプ・デービッドの推進者である以上、一〇三は当然の意見だが、パレスチナ人代表の一部にPLOを認めている点が大きな変化である。レバノンもイスラエルと外交関係を回復する

うソ連に圧力をかけ、アラブに対しても「国際会議とひきかえの相互承認」を迫っている。それは、このカーターの発言時、レーガンの静止的中東政策批判がなされたのにに対するホワイトハウスの反論は、次のようにであった。

「外国旅行中に、米政策批判を云ふ米国大統領が行うのは、ふさわしくない。現在の米政策の重点は、(1)財政赤字問題解決、(2)世界貿易。米国労働市場、福祉改革、健保等米国民が世界貿易からこうむる影響の三点にある」

レーガン政権は、昨年暮の「イラン・ゲート」暴露、中間選挙での敗北來、積極的な中東政策展開をひかれざるを得ない。とくに「イラン・ゲート」は、ヨルダンのフセイン国王からも「米国への信頼を失わされた」と評されるほど、イラン—イラク戦争における米帝の本音がアラブ反動の前に暴露されたといえよう。この間の米帝の動きは、

一、イランに対し、「ホルムズ海峡にミサイル配備するな」という警告またガルフへの軍事プレゼンスの恒常化。

二、米軍司令官クロウ提督のガルフ諸国歴訪と米海軍長官マーチの中

三日からに延期されている。準備会議が開かれても、PNCが開かれるとは限らないが、アラファト派は、アルジェリアやリビアがPNC開催を保証する限り、PNCを強行するであろう。アラファト派にとって、PNCを開催時期は、今においてはないからである。

パレスチナ解放を望む者は誰でも、PLOの再統一、PNC開催を望む。PNC開催は支持されべきであるし、国際的情勢の進展は、PLOとしての再統一を求めている。しかし、PNCが、PLO分裂のまま行われたり、中東における反帝進歩勢力統一の前進に結びつかない場合、龜裂は大きくなるだけである。

PLOを真に統一していくためにPLOは、現在の分裂状況を基本的に規定している八二年のイスラエルによるレバノン侵略、PLOのベイルート撤退という敗北と、それ以降の分裂の在り方の根本的問題の克服が問われている。

それは、パレスチナ解放勢力の即事的な民族的視野（民族的利害）から問題をとらえ、反帝進歩勢力内での矛盾を拡大してきたこと。路線的にPLOの名下に形成してきたことは、米・イスラエルとの政治交渉に

路線展開の軸をおき、武装政権勢力としてのPLOが実体を務めていることである。この問題は、対レバノン、エジプト、シリア関係として、具体的に問われていくであろう。いずれにせよ、PLOの再統一は、反帝進歩と民族解放の一貫した立場によつて進められるべきこと、中東和平国際会議は、パレスチナ人の唯一合法の代表としてPLOの参加な明白である。

パレスチナ人民の意志の結集として、PNC開催時期は、今においてはないからである。

パレスチナ解放を望む者は誰でも、PLOの再統一、PNC開催を望む。PNC開催は支持されるべきであるし、国際的情勢の進展は、PLOとしての再統一を求めている。しかし、PNCが、PLO分裂のまま行われたり、中東における反帝進歩勢力統一の前進に結びつかない場合、龜裂は大きくなるだけである。

PLOを真に統一していくためにPLOは、現在の分裂状況を基本的に規定している八二年のイスラエルによるPLOのベイルート撤退といふ敗北と、それ以降の分裂の在り方の根本的問題の克服が問われている。

それは、パレスチナ解放勢力の即事的な民族的視野（民族的利害）から問題をとらえ、反帝進歩勢力内での矛盾を拡大してきたこと。路線的にPLOの名下に形成してきたことは、米・イスラエルとの政治交渉に

（正式の表題は、「PLO統一」にむけたパレスチナ六組織の政治・組織合意」とすべきだが、「トリボリ合意」と略す——編注）

トリボリ合意

一九八七年三月二三日

資料①

トリボリ合意

（正式の表題は、「PLO統一」にむけたパレスチナ六組織の政治・組織合意作りに積極的な役割を果たしてくれたことを記しておく。）

一、パレスチナ・レベルにおける政治／ハパレスチナ・レベルにおける政治／六回までの（一六回を含む）合法合意作りに積極的な役割を果たしてくれたことを記しておく。

二、PLO政治綱領を遵守すること。

三、PLOは、パレスチナ人民の唯一合法な代表であり、その代表権は、PLO以外の者に任せたり、誰かと共同したりするものではない。PLOは、あらゆる方法を駆使して闘いを堅持する。その第一の方法は、武装闘争である。カイロ宣言を非難し、パレスチナ・レジスタンスに對してアラブの国境を守ること。

四、④キャンプ・デービッド合意、レバノン案、^⑥「自治」、^⑦「共同統治」を開けるよう。

リビアのトリボリにて、パレスチナ六組織は三月一六日から二三日までの期間、PLO統一の基礎とすべき点につき討議し、以下の文書にまとめてあげ、調印した。PFLP（パレスチナ解放人民戦線）、DFLP（パレスチナ解放民主戦線）、^①ファラギン案、^②「自治」、^③「共同統治」を開けるよう。

五、一九八五年二月一日のアンマニ・ファームも、この会議に参加した。

兄弟ムアムマル・カダフィは、同合意作りに積極的な役割を果たしてくれたことを記しておく。

六、アラブの総意であるアラブ首脳会談決議の遵守。とりわけ、^⑧七四年のラバト・サミット、^⑨七八年のバグダッド・サミット決議の遵守。

七、国連安保理決議二四二、三三八年のバグダッド・サミット決議の遵守。

八、エジプト政府がキャンプ・デービッド合意を遵守している限り、エジプト政府との政治関係を停止する。そして、敵シオニストとの関係を強固にうち固める。

九、被占領地との共同、連携をあらゆる形態において発展させる。パレスチナ人民大衆の隊伍を整え、シオニストの占領、抑圧行為に対

る。PLOの実体の弱体化、解体の追求と被占領地内人民に対する徹底した暴力的弾圧・追放政策の強化と、ヨルダンとの実質的な共同統治の推進である。エルサレムが鬭争の焦点となっているのは、そこが、アラブ、イスラエルの非妥協な問題であるからである。

そこで、被占領地パレスチナ人民の望むのは、PLOの再統一である。敵のペースによる国際会議の推進に対しても、またレバノンにおけるパレスチナ勢力の存在、アラブ諸国との団結の在り方の問題においても、敵に対するPLOの再統一を実現しうるか否かは、現在のパレスチナ革命勢力にとって、最大の課題となっている。

四、PLO再統一に向けて

四月二〇日に予定されているPNC（パレスチナ国民会議）開催に向けての動きが活発化している。パレスチナ解放を望むものでPLOの再統一を望まないものはいない。とりわけパレスチナ人民にとってPLOの再統一は念願の課題である。しかし、この間（八二年ベイルート撤退以来、反米強硬路線から、平和攻勢、デタントの方向に政策の軸を移し、中東問題においても、中東和平国際会議開催の推進を行つていていることと結びついています。その会議への当事者として参加すべきPLOの分裂は、PLOの位置を弱めるからである。この動きの活発化の第二の要因は、アンマン合意が実質的に破棄されることである。第三の要因は、「キャンプ戦争」を契機に、反アマルとして実質的にアラファト派、反アラファト派の共同が進み、レバノンに

PLO、PLF、PFLP・GC、PFLP、PLF、PFLP・GC、PFSF、ファタハ革命評議会・アブ・ニダル）のアラファト派との交渉のための合意内容は、シリアも全面的に支持する鮮明なものであった（資料参照）。その合意内容は、旧民族連合の主張であったアラファト派の立場を支持し、PLOの独立した対等の立場を強調し、PNCは第一六回の開催を支持する。それはこれまで、米帝・欧帝に対する政治交渉のみを要求している。また、ブレジネフ提案による国際中東和平会議開催を支持し、PLOの立場を強調する。それはこれまで、アラファトがカイロを政治的大戦争を終結させる現状の中で、PLOとしての統一を望んでおり、積極的に仲介をたしていることである。それは、ソ連がゴルバチョフ指導部にかわって以降、反米強硬路線から、平和攻勢、デタントの方向に政策の軸を移し、中東問題においても、中東和平国際会議開催の推進を行つていていることと結びついています。その会議への当事者として参加すべきPLOの分裂は、PLOの位置を弱めるからである。この動きの活発化の第二の要因は、アンマン合意が実質的に破棄されることである。第三の要因は、「キャンプ戦争」を契機に、反アマルとして実質的にアラファト派、反アラファト派の共同が進み、レバノンに

ここで、アンマン合意破棄は実質的に行われている以上、それを宣言することはアラファト派にとって容易なことである。しかし、アンマン合意がアマルから奪たのは、ソ連がゴルバチョフ指導部にかわつて以降、反米強硬路線から、平和攻勢、デタントの方向に政策の軸を移し、中東問題においても、中東和平国際会議開催の推進を行つていていることと結びついています。その会議への当事者として参加すべきPLOの分裂は、PLOの位置を弱めるからである。この動きの活発化の第二の要因は、アンマン合意が実質的に破棄されることである。第三の要因は、「キャンプ戦争」を契機に、反アマルとして実質的にアラファト派、反アラファト派の共同が進み、レバノンに

ここで、アンマン合意破棄は実質的に行われている以上、それを宣言することはアラファト派にとって容易なことである。しかし、アンマン合意がアマルから奪たのは、ソ連がゴルバチョフ指導部にかわつて以降、反米強硬路線から、平和攻勢、デタントの方向に政策の軸を移し、中東問題においても、中東和平国際会議開催の推進を行つていていることと結びついています。その会議への当事者として参加すべきPLOの分裂は、PLOの位置を弱めるからである。この動きの活発化の第二の要因は、アンマン合意が実質的に破棄されることである。第三の要因は、「キャンプ戦争」を契機に、反アマルとして実質的にアラファト派、反アラファト派の共同が進み、レバノンに

族勢力が眞の役割（アラブアラブ）に勝つ）を果たせるよう援助しよう。南部のシオニスト、北部のファラングスに対する戦闘で彼らと共に闘う。うほうが良い。

P.S.P.は、レバノン共産党との関係をうち固め、民族・民主綱領の実現にむけて闘い、パレスチナの大義を実現するために闘う。

三、ハバシュ議長演説（PFLP）

レバノン共産党は、レバノンで階級的・民族的役割を果たしてきた。今後とも、単にレバノン南部解放のためだけなく、パレスチナ解放の日まで、活発に役割を果たし、武装闘争を堅持されるよう、望む。パレスチナ・レベルについて言えば、八二年以来、PLO現指導部は、破壊的な政治路線をとり、シオニストヨルダンという敵の攻勢に屈服している。レバノンにおいて、パレスチナ革命は、抹殺の危険性に直面している。

三、ハバシュ議長演説(P)

た。以来、キリスト教右翼対バレスチナ勢力の戦闘が激化し、そこにレバノン民族派も参戦。直接的には、南部サイダでの漁民デモで、レバノン軍が発砲、数名を殺したことが引き金となつたが。パレスチナーレバノン民族派は、レバノン改革を要求して、軍事的に優勢を占めるようになった。

七六年一月中旬、バランスを保ち決定的なレバノン分割を回避する目的で、シリアは、P.L.A（パレスチナ解放軍）ヤルムーク軍団をレバノンへ進駐させる一方、当時の大統領フランジエに右の意図を通告。二月中旬、フランジエは、「憲法文書」というレバノン改革案を提案したが、民族派の要求にはほど遠く（国会の議席割当をキリスト教徒対イスラム六対五から五対五に均分するというのが主たる譲歩）、またパレスチナ勢力へもカイロ宣言遵守を約束しただけなので、問題解決にはならなかつた。

チナーレバノン三者最高軍事評議会にて

一パレスチナ連合軍をおさえた。この結果、八月一三日、五二日間の攻防戦の末、テリ・ザーテル・キャンプは右翼ファシスト軍に攻略された。こうしたシリアの介入に対し、カマル・ジュンブラットは抵抗を続けたが、シリア軍の圧力には勝利できなかつた。

日誌三月一四日のスフェイル発言参照。

② ファランジストは、自らをフェニキアの末裔、ヨーロッパの一部と規定し、アラブとは一線を画そうとしてきた。

③ ICOサミット、同会期中のミニ・アラブ・サミットで、ジェマイエル大統領がアラブの一員として扱われたことをさす。

激動の中東

トランクル

B こうした参加者の顔ぶれにより
統一会議と呼ぶ第一七回 P N C を
開く。

C た場合、追加参加者もある。P N
Cにおける大衆組織代表は、民主
主義にのっとること。

卷之三

犯し、時には戦略的
視してまで全民族主
要視するとすれば、
い、ブルジョアジー
てしまう。反面、副
しそぎるなら、民族
壊し、共産党は孤立
そして、党内に極左
らゆるチャンスを捉
ていく可能性を失う
利し、敵が革命勢力
許していくことにな
② パレスチナ問題
P L O 内民族派潮流
対するすべての闘い
一方、投降主義潮流
出してきた「解決案

二、ジョンブラット演説(P.S.P.)

① 我々は、七六年當時と似たような政治解決の糸口をつかんでいいるだろうか？ 当時、父カマルの指導したLNM(レバノン民族運動)は、

この立場に立つ時、我が党と、パレスチナ革命を担う他の党主体と一致する時もあれば、反対することもある。パレスチナの大義は、汎アラブ民族解放の大義の一部である以上、我が党が、パレスチナ主体よりも強くパレスチナの大義を主張することもあるのである。

大義を実現する党の一つ(なぜなら、我が党は、戦闘的アラブ人民の運動の一部であり、革命部隊の一つだからである。

- 人質問題
 - ① キュリティゾーン内でイスラエル軍と交戦し、敵兵一名せん滅、三名を負傷させ。レジスタンス側は、被害なし。
 - ② 誘拐グループ、仏政府の対イラク武器売却に抗議し、仏人質を処刑すると声明。
 - ③ チヤド紛争
 - ④ チヤド政府、スーandanにおけるチャドリビア秘密交渉決裂を発表。
- 三月一三日（金）
- レバノン
- レバノン再建問題
 - ⑤ ジュンブラット、カマル・ジュンブラット暗殺十二周年演説で、シユーフ山岳から退散したキリスト教徒に帰還許可を出す。なお、P S Pは、全党派に對して、シユーフとアレイ（ドルーズ拠点）での政治事務所開設許可を三日前に出した。
- 人質問題
 - ⑥ カラミ首相、一月二十四日に誘拐された四人の米人教授のうち三人の夫人と会見。訴えを聞く。
 - ⑦ 米国務省、米人記者テリー・アンダーソン誘拐二周年につき、釈放をアピール。

（八）仏のシラク首相、「対テロ戦争の脅しにもめげず、『棄せざ』」と語る。

三月一四日（土）

① レバノン再建

② カラミ首相、「西側諸国は、西ベイルートでの治安確立状況を検討し、近く大使館業務再開のめどをつけようとしている。また、ベイルート空港再開も近く行われよう」と楽観的見通しを述べる。

③ マロン派枢機卿スフェイルが声明発表し、「一九七六年七月のアサド大統領演説に規定されたごとく、シリアの意図は、レバノン分割を阻止し、平和と秩序の回復にある。こうしたシリアを、イスラエルと同一視してはならない。また、レバノンの国民対話を続け、公正と平等をもたらす努力を続けるよう」と述べる。

④ L.F.のジャジャ、「フランス政府がジャジャ暗殺未遂を企てた」と非難。

⑤ 人質問題

⑥ R.J.O（革命正義機構）、人質処刑延期を発表。

⑦ 別組織は、仏人人質の四八時間内処刑を発表。

- キャンプ戦争
　　西ベイルート、南部のキャンプに救援物資トラックが入った。シリリア軍が、これを監督。
- PLO再統一問題
　　西独で四〇人のパレスチナ人が集会を開き、パレスチナ革命の現状について討議しようとした。これを三〇〇人の警官が介入して、解散させたうえ、七人をテロリスト容疑（テロ組織を作ろうとした）で逮捕す。
- イスラエル
- ポラード・スパイ事件
　　ペレス、「エイタンとセラの二人が過ちを犯した。イスラエルは、米国内でのスパイ活動には反対」と語る。（編注：両名は、ポラード事件の責任者とみなされているが、事件直後解任になつたものの、現在も要職についているので、米帝は不満を表明している。シャミルは、「謝罪すべきことはした」として、居直っている。
- ニセ英國旅券使用発覚問題
　　英帝に公式謝罪。
- 米帝
- ジャクソン師（八八年米大統領選の民主党候補とみられている）、レーガンの中東政策を即変更せず

よ」と主張(「アラブーアメリカ研究所」第三回年次総会で)。

三月一五日(日)
ヨルダン連邦王国案提案十五周年
(フセイン・プラン)

レバノン

- ・南部レジスタンス

イスラエル北部の入植村に対し、ロケット砲攻撃。イスラエルは、即、南部の村々で、ローラー作戦シリアル

- ・被占領ゴランの村々で、反併合闘争続く。先週、主婦一名が殺され、たことから、反占領デモ高まる。

G C C

- ・サウジアラビア、五〇〇人の大企業家が、本日から四日間、私企部門振興、とくに投資不足問題解決につき、会議に入る。

エジプト

- ・対ソ軍事負債(三〇億ドル)交渉

三月一八日からモスクワにて行うと、政府筋発表。

イラン－イラク戦

- ・米紙、イランがホルムズ海峡に配備した「かいこ」ミサイル(対艦・中国製とされる)の存在を暴露

12

三月八日（日）シリア・バース党革命勝利二十四周年

シリアル
・被占領ゴランで、住民（ドルーズ）がシリア旗を掲げデモ。イスラエル警察隊に投石。シリア革命記念日で、連帶表明。婦人一名が射殺される。

イラブーイラク戦争

・トルコ空軍、「反政府クルドゲリラ掃討」のためにシリア北部の山村を爆撃し、村人八人を殺す。シリア政府はトルコに抗議し、トルコ政府もシリアに警告。

三月九日（月）
モロッコ

内閣一部改造。通信相に現モロッコ商工会議所会長が横すべり。

米帝 語
・米統合參謀長クロウ提督以下代表団、三日間のサウジアラビア公式訪問を終え、帰国。

三月一〇日（火）

リビア

- ・外務省スポーツマンによると「太平洋諸国の人民にとつての脅威の元凶は仮植民地主義と米国」モロッコ
- ・外相、本日からトルコ訪問。

三月一一日（水）

レバノン

① レバノン再建 治安確立を西ペイユートからレバノン全土へ拡大するよう提案（記者会見）。

カラミ首相、「シリア軍によ

- キャンプ戦争
- P S F の幹部、殺さる。
- G C C
- オマーンで G C C • R D F (緊急展開軍)が、本日から一二日間の演習。敵の海・空上陸部隊による侵略を撃退する模擬戦含む。
- サウジに、米帝軍事特使カレデ、本日から一〇日間の訪問開始。
- サウジのファハド国王、アルジエリア公式訪問。ガルフ戦争等地域紛争解決、アラブ・サミットへ向

と語る（シャミルは、「同委員会の結論は、何ら強制力をもたない」としている）。

PLO再統一問題

- ・アルジエリアに、アラファト議長（ファタハ）、ハバシュ書記長（FPLP）等各派幹部が、結集している。
- ・ファーフームPNC議長（PNSEは、一七回PNCを無効としている）、アンマン合意破棄をダマフカスからよびかける。
- ・シリア
- ・民主アラブ共和国大統領、シリマを公式訪問。

三月一二日（木）

・南部レジスタンス
レバノン

外相、一九日からヨルダン訪問予定。帰国後、イスラエル外務省事務局長とも会談する予定。

④ P L O 再統一の動き

アルジェにて四月中に P N C 開
・人質問題
レバノン
八七年一月から行方不明だったサウジ外交官一名、本日釈放される。
・キャンプ戦
アマルによると、サイダ近郊のザグドーラヤ、マグドウシェ両村近辺で、パレスチナ勢力と衝突あり。

- ・仏ソアール紙によると、仏内相は一三・一六日のサウジ訪問終了。
「ライド」(反テロ部隊)を早急にサウジに派遣し、サウジ警察訓練保証を行う。両国間保安共同を近い将来、劇的に高める"と語れり。
- ・仏兵いきつけのカフェで爆弾。九人死亡(仏は、元植民地ジブチに海軍基地を維持し、三〇〇〇人の部隊を駐留させている)。

① 議会外交小委員会は、八八会計年度（八七年一〇月一日からスタート）米帝

- ・ 行方不明だったサウジアラビア人釈放さる。
- ・ 人質問題
- ・ 南部レジスタンス
- ・ サイダ東の村をイスラエルが爆撃。アラファート派を狙ったとされる。
- ・ レバノン

会期了。一〇〇人が参加。
三月二〇日（金）

（ハ） ホルムズ海峡へのイランによる
ミサイル配備に關し、ワインバー
ガーが「ガルフ航行の自由を米国
は保証する責任を負う」と發言。
チャド紛争

・ 政府軍の攻勢が伝えられ始める。

チャド政府軍報によれば、北部（一
六度線以北）のリビア軍に対し約
八〇〇名戦死の被害を与えた。

三月二一日（土）

アル・カラメ勝利十九周年

六八年三月三一日、パレスチナ・
ゲリラの拠点とされたヨルダンのア

1987年5月31日 第23号 月刊 中東レポート

(二) 政府に伝える。
テリー・ウェイト
ラフサンジャニ・イラン国會議長、英國国教会に対し、八二年から東ベイルートで行方不明になつてゐるイラン大使館員四人の捜査とひきかえに、テリー・ウェイトの行方捜査協力を行うと発表。

レバノン再建問題
LFのジャジャ記者会見し、「社会連帶」という東ベイルート貧民救済プロジェクトを公表。一五万人に対し、主穀品一〇品目、医薬品一〇〇品目の価格の六〇%を援助するという内容。

シリアル

・ シリア蔵相、八七会計年度予算案を国会提出。公式レートでは、総

- アルジエリア
- I D Bとの間に、一〇〇〇万ドルローヌ（サウジからの石化製品輸入費用）調印。I D Bは、過去七カ月間に、計八四〇〇万ドルのローンをアルジエリアに与えた。
- イラン－イラク戦を攻撃したと非難。
- イラク、イランがバスマ市住宅街を攻撃したと非難。
- 米帝海軍長官マーチ、イスラエル入り。駐イスラエル米大使、「ポラード事件にもかかわらず、米－イスラエル関係は不変なり」
- 対エジプト経済関係

ト価格)の石油を輸入している。
米帝
・訪米中のトルコ外相とシュルツ五
カ年防衛・経済協力合意に調印。
同合意により、トルコは八七年度
軍事・経済援助七億二〇〇〇万ド
ルをうけとる。

三月一七日(火)

レバノン

・南部レジスタンス

迫撃砲攻撃で、「セキュリティゾ
ーン」内のイスラエル兵三人を負
傷さす。これに対し「S.L.A.」と
イスラエル軍は、四カ村をローラ
ー作戦にかけ、村民を恫喝。また
その中の一つの村からは、赤十字
診療所の物品を奪い、村人數名を
拉致。

- ド、他一名の更迭。ただし、政治局員としての地位は保持。
- ・人質問題
- RJO、ファドラッラー師の助命アピールに応え、仮人質処刑の一週間延期を発表（シリア、仮政府が、イランに圧力をかけたとされる）。
- ・イスラエル
- ① 反イスラエル・レジスタンス
ガザで、二〇〇人のデモ。イスラエル軍が発砲し、二名がけが。
- ② ベール・シバで、パレスチナ人学生が授業料値上げに抗議し、スト。
- ・国際会議
- ① 国防相ラビン、西独週刊誌とのインタビューで、「イスラエルと

〔S L A〕本拠、拠点への砲撃、待ち伏せ攻撃に対し、イスラエルが、数カ村を砲撃。

④ 人質問題

⑤ R J O、再び四八時間の処刑延期発表。

額一〇六億ドル。投資抑制のため、前年度比マイナス四・八%。国防費を除く一般歳出分野では、電力・水力関連投資は四三・五%が最

カイロでの国際貿易フェアにイスラエルも参加。
① 八六年度の非石油部門両国貿易は、対エジプト輸出 二五〇万ドル（農業・かんがい機械）

また、「セキュリティゾーン」外へもイスラエルのパトロール部隊がレジスタンス捜査に出た。

・アサド大統領、カーターと会見。

シリアル

三月二三日（月）

レバノン

① 南部レジスタンス

② イスラエル軍、二一日来、エイタナ町に外出禁止令を課している。レジスタンス側は、「セキュリティゾーン」に砲撃の雨をふらす。これに対し、イスラエル軍、南部数カ村にローラー作戦展開し、四機で昨日と同じ村を空爆す（真空爆弾）。

・再建問題

① ジュンブラット、レバノン全土への保安確立、そして南部解放へむけた統一をアピール。

② 新着任イラン大使をカラミ首相が歓迎。

・人質問題

① テリー・ウェイト

イラン放送によると、「RJOは、テリー・ウェイトをスペイとして逮捕した」とのこと。

② IJLP（パレスチナ解放イスラム聖戦機構）、「一月に誘拐した米人教授のうち一名「スペイであるステイーン」が健康を害しているので、イスラエルが一〇〇人の政治犯釈放するなら、交換に釈放

（八） 仏人人質ノルマンダン氏の父、
ペイルートへ。

P L O 再統一

G C C

- ・ UAE大統領、訪問中の仏外相に
対し、ECが中東和平実現にむけ
努力してほしいと要請。これに対
し、仮外相は“八六年七月のゴル
バチヨフ提案による中東和平国際
会議準備のための国際委員会結成
を支持する”と再確認。

O P E C

- ・ クウェート石油省によると、O P
E C 産油量は、上限幅の八五%の
み。

ヨルダン

- ・ マスリ外相によると、

一、米国は、イランとの秘密交渉で
失墜したアラブでの信頼回復の努
力をしている。たとえば、イラン
に対するホルムズ海峡ミサイル配
備への警告。

二、ヨルダンは、対米工作を続け、
米の態度をかえさせようと努力中
三、二週間前に、ニューヨークで國
連総長と会見した時「もしも（国

四、アラファートがアンマン合意破棄するとは思わない。もしも、反アラファート派の要求を容れて破棄するなら、PLO単独(パレスチナ)代表として国際会議に出席するという意向である。これは、将来ヨルダンとの連邦をめざさないという意志表示であり、平和作りの努力が水泡に帰そう。

米帝

・マーフィーの顧問を中東歴訪させ国際会議問題を検討中。同顧問、本日、イスラエルからカイロへ。

仏帝

・U A E訪問中の仏外相、「イランとの関係改善は仏外交政策の転換ではない」と語る。

三月二四日（火）

P L O再統一問題

・六派によるトリポリ声明発表（資料参照）。

米帝

・カーター外交

本日、シリアからヨルダン入り。ハッサン皇太子と会見し、

一、中東和平国際会議

二、西岸 カザ開発五ヵ年計画について討議。

- ・ファハド国王、本日から四日間の英公式訪問。
- イスラエル
 - ・反イスラエル・レジスタンス
 - 一九八五年八月のPLO活動家根絶キャンペーん開始後一六人めの国外追放令が、ナジャ大の学生に
- 三月二十五日(水)
 - レバノン
 - ・南部レジスタンス
 - 「セキュリティゾーン」ヘロケット砲攻撃。イスラエルは、数カ村への砲撃、サイダ上空を三時間にわたり威嚇、海軍による南部海域哨戒で報復。
 - ・レバノン再建
 - ① ハジビッラー指導者四人がダマスカスで、アサド大統領と会談。
 - ② スンニ派宗教指導者のカリド師曰く、
 - 一、西ベイルートへのシリア軍進駐は、混沌と破壊を終わらせた。
 - 二、再建にむけては、まずレバノン一人同士での理解、次にレバノン—シリア間の理解、そして初めて提案されている政府についての順に討議を進めるべき。

- ・近々で、時限爆弾。イスラエル軍装甲車、ジープ等に被害を与えた。イスラエル機、ベイルート、レバノン山上空を領空侵犯す。
- ・レバノン再建
- ・P.S.P.とアマルの対立、表面化。昨日ジュンブラットがベリ批判したのに対し、ベリが逆襲。主旨は、ジュンブラットこそ親シオニスト。
- ・P.S.P.とシオニストの交渉の事実を示す文書公開することができる。
- ・レバノン共産党幹部暗殺事件をアマルの責任とするなら、ハウイ議長自らがそう発言しているのか否か明らかにせよ、というもの。
- ・人質問題
- ・アラファート議長、チュニスで米国記者と会見。人質釈放への協力を

（一〇）メートルの金網を張りめぐらす。

（二）エルサレム近くの国連学校、投石のため、一〇日間閉鎖処置をうける。

・入植攻勢

① 西岸北部のナザレ区では、入植村拡大のために、さらに〇・三二平方キロを接收。

（二）西岸南部のヘブロン区では、「建築法違反」を口実に、「不法建築住居とりこわし」を通告。

米帝

・カーテー、シリアルへの非公式訪問本日から三日間行う。

・米海軍長官マーチ、カイロにて発言。

「エジプト＝米の戦略的関係は強

① 南部レジスタンス

② 本日未明、イスラエル北部に口

ケット砲攻撃。

③ イスラエル機、三月三〇日に爆

撃したと同じ村を爆撃す。

④ キャンプ戦争

西ベイルートのボルジ・バラージ
ネ・キャンプ攻防戦、再燃。

⑤ レバノン再建問題

第九回シリアーレバノン間接交渉
について、シリア外務省筋の語る
には、

一、これといった進展があつたわけ
ではない。

二、レバノンの権力分有、宗派制廢
止につき、第一〇回を三月二六日
に行う。

- ・ フセイン国王、カイロへ。「PLOを含む当事国、国連安理会常任五ヵ国が参加する中東和平国際會議開催を要求する」と語る。
- ・ リビア
- ・ カダフィ大佐、米NBCテレビとのインタビューで、『米国が再度リビアへの軍事攻撃をかけたら、リビアは共産主義国になり、ワルシヤワ条約参加、ソ連核ミサイル配備にふみきる』と警告。リビアが核武装に言及したのは初めてとされる。
- ・ チャド紛争
- ・ チャド政府軍報によると、チャド北部のリビア統轄下のウアデイ・ドゥム空軍基地を奪回した。仏国防省も、チャド軍の圧勝を確認。

ル・カラメ村（「名菅村」という意味）をイスラエル軍が襲撃した。パレスチナ側は、圧倒的に不利な兵器・兵力にもかかわらず、イスラエル軍を撃退。六七年六月の戦争で、アラブ諸国正規軍が敗北して以来下降していたアラブ側の志気が、アルカラメの勝利で、一気により上がりつた。

表明するも、『レバノンの人質問題は、八二年のシオニストによるレバノン侵略が原因。米帝は、この侵略を支持し、今回のシリアの西ベイルート介入も了解している』として、米帝批判。

・アラブ連盟創立四十二周年
化される一方である
クレイビ会長曰く、
一、アラブの経済・社会・文化協力
の必要性にみあうようなアラブ連
盟の近代化を。
二、アラブ－イスラエル紛争解決に
加え、アラブ・レベルの死活問題
であるイラン－イラク戦、レバノ
ン問題の解決にむけ、アラブの政
治的立場を統一せよ。

ジエマイエル大統領代表団の中の一人によると、大統領と閣議の行政権分有以外は、すべての点で合意に達したこと。

P L O 再統一問題

- アラファト議長、バグダッド入り、P N C 議長と会議するとされる。
- W A F A (パレスチナ解放通信) は、「第一一八回 P N C (パレスチナ国民会議)」を四月二〇日アルジェにて開催する」と発表。

三、ソ連の態度として、「中東の公正な和平が実現したら、即、イスラエルとの関係正常化が可能」という点を明らかにした。

四、近く、領事級代表団をイスラエルに送るが、これは、イスラエルが凍結したロシア正教会の財産問題を討議するため。

アラブ連盟

- ・チュニジア訪問中の東独外相に対し、クレイビ会長が、厳しく抗議（右のユダヤ人移民大量許可問題）。

- レバノン
- 四月四日（土）
 - ヨルダン
 - フセイン国王、突然ダマスカスを訪問。その後、モロッコ非公式訪問（二日間）へ。
- 人質問題

エジプト
・六日の国会選挙を前に、「数百人の反対派が逮捕された」と野党が政府批判。
四月五日（日）
レバノン
・南部レジスタンス
イスラエル軍、「セキュリティゾーン」に「地区行政局」を設置し、
収税、徵兵制強行（「SLA」に入れる）措置の準備（併合実体化のさらなる一步）。

四月六日（月）

イスラエル
・国際会議
①ペレス、スペイン公式訪問。
②シャミル、ペレスのスペイン訪問を批判。

ハ　　ワイツマン無任所相、「もはや差
　　クードが、早期選挙に合意する」と
　　う」要求。

問題を討議するよう緊急安保理事会を開催を要求した」

ソ連

- 三月二七日からの“ソ連在住ユダヤ人の大量移民許可”キャンペーンを、外務省が否定。主旨は、表が訪ソしたが、これは私的レベルの訪問として扱った。

- 果たせぬ（アマルが放火したとき
れる）。
- 再建問題
アマルの軍事責任者の兄弟と保安
責任者の兄弟が銃撃戦を行い、前
者が死ぬ。
- P L O 再統一問題
アラファト議長、昨日バグダッド
からチュニスへ入り、ファタハ中
央委員会を開始。四月二〇日のP

アラブ連盟
・明日からのアラブ外相会議にむけ
「キャンプ戦争停戦調整委員会」
(七カ国外相)は、報告書を準備
す。
イスラエル
・ボラード・スペイ事件
空軍将校セラ、イスラエル国立保
安大学教官に任命さる。

二、南部のキャンプ封鎖について
パレスチナ勢力がサイダ近辺の迦
点から撤退すれば、解除する。
アラブ連盟

●定例アラブ外相会議、本日からマ
タート。議題は、

一、レバノンのキャンプ戦争
二、アラブ・サミット
三、イラン－イラク戦争

1987年5月31日 第23号 月刊 由東レポート

「イラン・ゲート」事件
カーター、ハイファ大名誉博士号
受賞式で曰く、
一、イランへの秘密裡の兵器売渡し
は、とくにヨルダン、エジプト両
国にとつての打撃であった。イラン
・ゲート暴露四日前に、米から
高官が両国を訪問し、圧力をかけ
てこれを止めさせるよう要請した
二、ヨルダン、エジプト、そして
分は、中東、ガulfの安全にとつ
て究極的な脅威はイランなりとい
う点で一致している。
三、今回の中東五カ国訪問で、アラ
ブ側が十分な柔軟性を示し、イス
ラエルとの交渉準備があるという
こと、このために、国際会議開催
要求には正当な根拠があるとい
う点がわかった。
四、イスラエル内には、国際会議問
題をもつと創造的に捉えていくた
めの討議が欠けている。国際会議
ができる、ソ連が中東に進出し
てきてイスラエルにも指図すると
か、既成概念で反発しているよう
だが、これは分析が不十分だから
である。

ヤ人政策の大幅自由化にふみきつた"という説が流れる。内容は、

一、八七年度の対イスラエル移民(従来のウイーン経由でなく、ブカレスト経由で)を一一〇〇〇から二五〇〇人とする。

二、八七年度五月から、学校でのヘブライ語授業の合法化。

三月三一日(火)

レバノン

- ・南部レジスタンス
- イスラエル軍の増強、行動範囲北上が伝えられる。

再建問題

- ① カラミ首相、「今週末にも、ベイルート空港再開したい」と発言する。
- ② シリア軍、三月二八日におこったシリア軍情報本部爆破事件の犯入六人の逮捕を公表。
- ③ シリア軍検問所三カ所近くで爆弾。

④ 人質問題

- テリー・ウェイド、訪英中のジョン・プラット、ウェイド夫人と会見。
- 西独人二人(西独が捕えているハマデイ兄弟の対米ひき渡し)

- 被占領地問題
- シリア

昨日、シャミルが「占領したアラブの土地は手離さぬ」と発言したのに對し、バース党機関紙が非難的イランーイラク戦争を北イエメン外相、バグダッドでフセイン大統領と会談。

モロッコ

- トルコ大統領、昨日からモロッコを三日間公式訪問。モロッコとの討議議題は、

一、両国間貿易

圧倒的にモロッコ側の黒字なので今後トルコがダム等の建設に入ってくることになる。

二、中東情勢

両国は、パレスチナ問題に関しては同見解なるも、イランーイラク戦では、トルコは「中立」を保つている。

- 三、西サハラ紛争
- 四、キプロス紛争

- 再建問題
- 被占領ゴラン
イスラエルからの武器奪取の罪で三人のシリヤ人に一五年の実刑判決を下す。
- イスラエル
ヘルツォグ大統領、スイス、西社一〇日間の訪問へ。
- ヨルダン
ハシミテ王家侍従長、U A E、タールへ、フェイイン親書を届け、来週に予定されているヨルダン首相、外相の訪米問題に関する内容とされる。
- アラブ連盟
定期外相会議延期。ただし、第八回アラブ連盟評議会、本日からスタート。
- 「キャンプ戦争」について、サウジアラビア、アルジェリア両国外相がダマスカス入りし、実情把握を行うこと、キャンプへの救援物資補給保証工作を行うことを決定。

① リファイ首相（ヨルダン）との会談で、「国際会議について不一致なし」とシユルツ。

② 下院小委員会での証言で、マーク・フィー曰く、「シリアも、国際會議参加に関心あるかも知れない」

に、イスラエル施設を建設した。このため、レバノン領としては、「停止させる」。土地接收の代金を払うという体裁とろうとするも、申し出た農民は少ない。

●外務省スポーツマン曰く「シリ
アが対テロ援助を放棄したとする
実質的証拠が出されるまで、シリ
アとの関係正常化はきわめて不適
当なり」

船の航行を許し、核実験を許している。それなのに、主権国家同士の自由な関係については大声で反対する」

武器生産に協力でくる状態になつた。サウジの軍需産業は、工業会社に成長している。

ジアはこの件を機に、イランが反ブルギバ運動に介入しているとして、反政府勢力弾圧している。

●被占領ゴラン
シリヤ人五人が、シリヤ旗を掲げたとしてイスラエル軍に逮捕されるアラブ連盟
・クレイビ会長、汎アラブの団結には、エジプト復帰が不可欠としてエジプト復帰キャンペーンを始め
る。

ナ人への国土返還とひきかえに、占領国イスラエルを保持するような中東和平には断固反対。

二日間の公式訪仏予定。

一、国防・航空相スルタン王子曰く、
注国の発表は、来月以降に行う。

二、米国からの兵器購入は、米国自身の規制があり、サウジの希望通りにはいかない。どこの国も好きなどうに売る自由があり、サウジもどこからでも好きに買いつける自由がある。

三、サウジ工業の発展
ジェッダ、リヤド、ジュバイル、ヤンブーの非軍事工場は、一定の

④ 西岸のラマツラーで、イスラエル軍に投石、火炎びん。威嚇射撃に対し、ピストルを奪おうとしたデモ隊のうち一名が射たれ、負傷。エルサレムの赤十字社前で、政治犯のハンスト連帶すわりこみ、婦人たちが本日で三日連続。

- ・
南部へ来てほしい。イスラエルのやっている殺人、土地略奪、住民への敵対行動等をみたら、国際テロの何たるかが知れよう”
- ・
再建問題
シリア軍三〇〇人の部隊がボルジバラージネへ。シリア軍情報将校曰く「キャンプ戦争は、これで終わった」。シリア軍による負傷者救出続く。

発表。イラン革命防衛軍、中央戦線突破にむけ、八〇年来イラクが制圧してきた戦略高地二カ所を解放したとのこと。

・ イラン外相、ジュネーブで記者会見。

一、イスラエルが関与したとみられる兵器は送り返した。イランは、前米政権から買いついた武器を引きとったのみ。レーガンは、イランへの接近を試みたが。

二、パレスチナ問題では、イスラエルには何らも責任はない。パレスチナ

987年5月31日 第23号

月刊 中東レポート

① シャティーラに、シリア軍展開
再建問題

レバノン

四月七日（火）

・総選挙
エジプト

アラブ連盟

・外相会議で、中東和平国際会議支
持を確認する。

P代表と会見し、ソ連の意向を伝
えた。

「PLOがシリアおよびシリア以外の反帝国家と連帯し、協力することを望む。なぜなら、それが、パレスチナ人の正当な権利奪回へむけた前提条件である。」

合意に到達できないなら、ハハ年の大統領選は、やらせない。ジエマイエルから他の誰か（マロン派）に交代しても、問題解決にはならないので」。また、「キャンプ戦争の真の姿は、アラファートによるレバノン内パレスチナ国建国、それによるレバノン統一の危機であった」としている。

事国が準備し、決議二四二、三三八を承認し、暴力的解決を放棄するものでなければならない。ソ連も肯定的な反応を示している。また、もし、PLOの呈示する基準が満たされるなら、きっとPLOも参加すると思う”

これに対し、ベルギー外相、「ECイニシアチブ発揮は、EC—シリリア関係改善が前提」と回答。

④ 首相、外相、八六年一月のylan・ゲート暴露來初の訪米。目的は、国際会議を行うという確認のとりつけ。

二、ヨルダン援助、「西岸開発五力年計画」への出資とりつけ。

- P L O 再統一問題
- P F L P のハバシュ議長、アルジエ入り。
- リビアのカダフィ大佐曰く「P L O 再統一に介入したのも、反イスラエル戦線に全勢力が結集していくため。アサド大統領は、トリポリ会議の成功に寄与し、ベン・ジャハイド大統領はパレスチナの隊列統一に力を貸している。サウジアラビア
- 先月末から非公式英訪問中のファハド国王、本日から、非公式訪欧に出発。これまで、トルコ首相、バーレーン皇太子、英國国防相と会見して、二月一日、

● キャンプ戦争
クウェートからの救援物資、ボルジ・バラージネに入る。シリア軍の監督で、物資の一部は、キャンプ周辺のレバノン貧民(シーア派)にも配分される。PNSFリーダーによると、「キャンプも西ベイルート治安確立分野にくみ入れられた」

(口) レバノン—シリヤ間接交渉
① カラミ首相、ジエマイエル提案を「一步後退」と非難。内容的に、大統領権限をマロン派が堅持するというものなので、民族派の要求にそぐわない。「もしも大統領選挙ができない場合でもジエマイエルが大統領選に居るつもりなら、選挙をやらせぬところまで混亂が深まるう

きである」

ヨルダン

・国際会議

① フセイン、ベルギー外相と会談

二月のEC外相会議によるイニシアチブを評価する。最後の障害物たる米・イスラエル両国を工作し、国際会議をうけ入れるよう、ECが努力してほしい。ECのオザバー参加も支持する。

- イラン軍、イラク軍、バスク市へむけた新攻勢展開を発表。
- イラク軍、ホルムズ海峡西のイラン石油積み出しターミナルを爆撃す。

- (口) トルクラム、ラマッラー、ナブルス、ベツレヘム、ナザレ等では、イスラエル軍への投石、デモ。
- (ハ) イスラエル軍、外出禁止令の連発。
- (三) 入植者は、パレスチナ人の車、家、店への焼きうち。
- (シ) ベツレヘム市長フレイジ（親ヨルダン派とされる）、国防省ラビン、警察相バーレフに対し、「ジョン・ユネーブ協定に基づき、政治犯の要求を入れるよう」アピール。
- (イ) 刑務所総監、「絶対譲歩せず」と強硬論曲げず。
- 國際會議
- (1) ペレス、イタリアにおける社会主義インターナショナルに出席。ソ連共産党中央委員会國際部も、初めて招待されて出席（オブザーバー）したが、同部員とペレスが会見。同部員のうちの一人は、六日、ファタハ、DFLP、PCP代表と会談したとの同一人物。
- (ロ) 被占領地からイタリア入りしたハンナ・シニオラ、アブ・ラハメの二人とペレスが会う。二人は、「自分たちは、PLO議長の代行なり」と宣言す。
- (ハ) 無任所相ワフィツマン、記者会見で曰く、

- 一、レーガン政権は弱体化しており、二、建国來最高の經濟・軍事力量を誇るイスラエルが中東和平の決定要因なり。
- 三、PLOについて
- PLOが認めうるパレスチナーヨルダン合同代表団との交渉ということは、PLOとの間接交渉といふ意味になる。いすれは、アラフアト議長と、ひざをつき合わせて交渉せねばならない。
- 四、國際會議を行つて、「西岸、ガザをパレスチナ人が一定の規制下であれ、自分たちで運営するような解決策」を作れば良い。
- 核兵器問題
- (1) 八六年一〇月のバヌヌ技術問題以来、ノルウェーは、イスラエルに対し六〇年に売却した重水二〇トンがプルトニウム生産に利用されているか否かの現地調査団派遣を追求。本日、「イスラエルが重い腰」と、ノルウェー政府が批判。
- (ロ) バヌヌ裁判は、五月に。バヌヌは、家族との接見禁止処分中。
- 米帝

- フセイン国王、訪英。本日サッチャードと会談し、
- 一、パレスチナ問題の現状
- 二、レバノン情勢
- 三、イラン－イラク戦
- 四、國際會議問題
- につき討議。
- 訪米を終えた首相、外相も英入りし、フセインに結果の報告。
- エジプト
- 内相、選挙結果公表。
- 与党NDP（国民民主党）は、八四年の総選挙より五〇議席失ったが、七〇%の得票率、選挙対象の四四八議席中三三八議席を獲得。
- 四月一〇日（金）
- レバノン
- 再建問題
- PNSFとアマルが南レバノンの「キャンプ戦争」停戦会議、シリアの仲介で。

- 反イスラエル・レジスタンス安刑務所を調査。
- (ロ) イスラエルは、「六〇〇人だけがやっている」としているが、ナブルス近くのジネイド監獄では三〇〇〇人以上が闘っているとされる。
- (ハ) 西岸、ガザ一帯で、連帯・支援団体、昨日から四日間のカラチ公式
- 被占領ゴラン
- マジダル・シャムス町で、反仌闘争の英雄（一九二五年）の像をイスラエルが爆破したのに怒り、町
- 民がイスラエル警官隊に投石して抵抗。西岸北部から動員された入植村警察所長以下数人を負傷さす。
- PLO統一問題
- (1) チュニスにてアラファト議長曰く、「四月二〇日のPNCは、国際會議にむけた統一的立場を作ることにある」
- (ロ) 本日から、ファタハ中央委員会、チュニスにて。
- (ハ) 四月一三日から、アルジェにてPNC予備会談。
- イスラエル
- (ロ) 国際赤十字が、ハンスト中の治安刑務所を調査。
- (ロ) イスラエルは、「六〇〇人だけがやっている」としているが、ナブルス近くのジネイド監獄では三〇〇〇人以上が闘っているとされる。
- (ハ) 西岸、ガザ一帯で、連帯・支援団体、昨日から四日間のカラチ公式
- ポラード・スペイ事件
- 調査委員会にシャミル出頭。一二日はペレスが出頭し、事情調査うける。
- 帰国。